

2024年5月10日

各 位

東京都千代田区内神田二丁目12番5号

株式会社ビーマップ

代表取締役社長 杉野 文則

(東証グロース：4316)

問合せ先：取締役経営管理部長 大谷 英也

(電話 03-5297-2181)

営業外費用・特別損失の計上並びに業績予想の修正に関するお知らせ

今般、2024年3月期末において、営業外費用及び特別損失を計上することとなり、また、業績の動向を勘案し、2023年12月22日に発表いたしました2024年3月期通期の連結業績予想を下記のとおり修正いたします。

記

1. 営業外費用・特別損失の計上

連結子会社である株式会社MMSマーケティングへの出資比率変動に伴い、持分法による投資損失4,133千円を営業外費用に計上することといたしました。

また、3期連続して営業損失を計上する見通しとなったことから、事業用固定資産について減損損失28,658千円を特別損失に計上することといたしました。その他、当社個別において、子会社・関係会社株式評価損22,461千円を計上することといたしました。

2. 2024年3月期連結業績予想数値の修正

2024年3月期通期連結業績予想修正（2023年4月1日～2024年3月31日）

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	1,500	▲170	▲170	30	9円27銭
今回修正予想 (B)	1,598	▲71	▲72	155	48円19銭
増減額 (B - A)	98	99	98	125	—
増減率 (%)	6.5%	—	—	416.6%	—
(ご参考) 前期実績 (2023年3月期)	1,042	▲181	▲188	▲224	▲69円54銭

【修正の理由】

前回発表以後、各事業分野にて売上高の上積みと費用の統制に取り組んだ結果、見込んでいた損失額を大幅に削減することができ、親会社株主に帰属する当期純利益は過去最高額を計上する見通しとなりました。

売上高の積み上げの他、保守的に見込んでいた労務費・外注費等の製造原価も一定の縮減ができたことにより、原価率が前回修正時の見通し61%を下回り、55%程度となる見通しとなりました。売上総利益は前期より大幅に改善する見込みですが、販売費および一般管理費は、子会社増などに伴い計画以上に費やしたため、営業損失・経常損失・親会社株主に帰属する当期純利益とも改善する見通しであるもの

の、営業黒字の回復には至りませんでした。特別利益の計上により、親会社株主に帰属する当期純利益は過去最高額となる見通しとなりました。なお、前回発表時に評価損等として見込んでいた特別損失の一部は、今回業績の回復に伴い計上を取り止めております。

<事業分野別売上高の見通し>

	前期実績	当初計画	前回発表時の 修正見通し	直近の見通し
モビリティ・イノベーション 事業分野	75 百万円	120 百万円	120 百万円	119 百万円
ワイヤレス・イノベーション 事業分野	645 百万円	780 百万円	650 百万円	703 百万円
ソリューション事業分野	320 百万円	900 百万円	730 百万円	775 百万円

事業分野別の状況及び見通しにつきましては、以下のとおりであります。なお、セグメント損益には、全社費用 111 百万円を含みません。

(1) モビリティ・イノベーション事業分野

当事業分野においては、交通系 IC カードに関わる交通費精算クラウドサービス「transit manager」や私鉄向けアプリ開発等を行いつつ、鉄道事業者との間で商業施設や地方公共団体向けのデジタル切符サービスなど新しい事業モデルの構築に取り組んでおります。鉄道利用者減少の影響により鉄道事業者の投資が慎重になる中で、新規の事業展開も遅れておりましたが、第 4 四半期において、これらの来期以降にもつながる新規案件を積み上げることができました。当事業分野の売上高は 119 百万円（前期 75 百万円、57.6%増）、セグメント損失は 7 百万円（前期 30 百万円）となる見込みです。

(2) ワイヤレス・イノベーション事業分野

当事業分野においては、従来は通信事業者と共同で主にインバウンド需要にむけた Wi-Fi クラウド管理システムの構築と運用を主力としておりましたが、コロナ禍・with コロナにおいて需要が回復しないまま、様々な無線デバイスを用いた IoT・ローカル 5G などの分野にも取り組み、これらにより収益回復を目指す予定でした。第 4 四半期において大型案件も計上し、原価統制にも一定の効果が出たことから、当事業分野の売上高は 703 百万円（前期 645 百万円）、セグメント利益は 139 百万円（前期 35 百万円）となる見込みです。

(3) ソリューション事業分野

ソリューション事業分野につきましては、自治体・事業会社向けの Wi-Fi ハードウェア販売が好調であり、こんぷりんの証明写真サービスが伸長するなど、売上高の拡大に寄与いたしました。近年注力している O2O2O・MMS サービスの主要顧客・業務提携先である流通業界の投資動向が回復しつつあり、企業向け受託開発案件も積み上げました。当期より連結子会社化した株式会社 MMS マーケティングの業績も取り込み、事業規模は拡大しておりますが、一部案件の取りこぼしと子会社の販売費および一般管理費の負担増により、損失は増加いたしました。当事業分野の売上高は 775 百万円（前期 320 百万円）、セグメント損失は 92 百万円（前期 80 百万円）となる見込みです。

5. その他

ワイヤレス・イノベーション事業分野におけるキャリア向け事業が大幅な拡大を期待できなくなる一方、モビリティ・イノベーション事業分野、ソリューション事業分野は新たな取り組みを中心に伸長しており、2025 年 3 月期以降もその傾向が続く見込みです。

従来の中期経営計画（「事業計画及び成長可能性に関する事項」を含む）の内容については、改訂を行っているところであり、確定次第速やかに公表させていただきます。

- (注) 2024年3月期決算短信につきましては、2024年5月14日の発表を予定しております。
- (注) 上記の業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づいております。今後、変更すべき事象が生じた場合は速やかに発表させていただきます。

以 上